

ボラ協情報

平成 24 年 (2012) 7 月 31 日 (火) 第 71 号

Normalization をめざして — ボランティアによるボランティアのための情報誌 —

三浦市ボランティア連絡協議会

団体数 16 団体

(平成 24 年 7 月 31 日 現在)

編集・発行
三浦市ボランティア連絡協議会
連絡所 三浦市総合福祉センター
TEL 046-888-7347

第22回

三浦市ボランティア連絡協議会総会

H.23.5.22(火)
総合福祉センター



地域に温かい心の輪を繋げる活力を

三浦市ボランティア連絡協議会会長 高梨ティ



第 22 回総会が、5 月 22 日 (火) 午後 1 時 30 分より総合福祉センター多目的ホールにおいて、会員多数の出席のもと開催されました。来賓挨拶として、市民協働部長加藤理江子様、三浦市福祉協議会会長川崎喜正様から温かいお言葉をいただきました。議事につきましては会則の一部改正などもありましたが、皆様にご了承いただき新年度のスタートをきることができました。

4 部会 (広報、研修、交流、会員) の事業につきましては、各部会の自主計画に基づく事業内容が決定して、活動が始まります。

昨年度「三浦市ボランティア懇談会」を開催いたしました。市内でボランティア活動をされている方々とお互いに力を合わせ、公民協働の地域活動の推進ができることを願っています。今年度の開催に向けて準備に入りたいと思っておりますので、皆様のお知恵を是非お貸しください。「ボラ協 20 年の歩み」にも書きましたが、時代の流れや社会構造の変化によって地域住民の生活環境も大きく変わりました。しかし、家庭の温もり、地域の連帯感、地域ぐるみの助け合いなどは、むしろ今こそ必要なものかもしれません。私達の活動が、地域に温かい心の輪を繋げる活力を創生していく事を目指したいと思っております。今年度もよろしくお願いたします。

昨年 3 月 11 日の東日本大震災の時の大津波の映像は、私たちの脳裏に焼き付いていますし、海に囲まれた半島に住む者として不安を抱いている方も多いと思います。そこで総会後の研修会には今回のテーマを選びました。地元の担当者ならではの大変貴重なお話を伺うことができました。

◆研修会「津波対策」今、私たちにできること
(講師：三浦市行政管理部危機管理課課長 小川史郎氏)

H.24年度予算

(収入の部)

(円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減(Δ)	備考
会費	17,000	17,000	0	1,000×17グループ
助成金	100,000	100,000	0	市社協より
雑収入	5,000	20,000	Δ15,000	利子他
繰越金	13,189	36,259	Δ23,070	
合計	135,189	173,259	Δ38,070	

(支出の部)

(円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減(Δ)	備考
会議費	3,000	3,000	0	
総務費	10,000	15,000	Δ5,000	謝礼他
研修費	30,000	30,000	0	交流、研修、会員部会活動
広報発行費	15,000	15,000	0	紙、インク
負担金	8,000	8,000	0	県V連 社協
消耗品費	5,000	10,000	Δ5,000	事務用品 他
通信運搬費	9,000	9,000	0	切手他
旅費	38,000	38,000	0	県V連 他
予備費	17,189	15,259	1,930	
引当金	0	30,000	Δ30,000	
合計	135,189	173,259	Δ38,070	

「津波対策」今、私たちにできること

三浦市行政管理部
危機管理課 課長 小沢史郎



東日本大震災を教訓に

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震は、太平洋プレートが北米プレートの下に沈み込む際の歪みの蓄積によりプレートが反発して起きた海溝型地震であったと言われております。この地震により広い範囲で揺れによる建造物の倒壊、地すべり、液状化現象などの被害を生じたほか、予想を遥かに超えた大津波によって甚大な物的、人的被害を生じました。このような千年に一度と言われる規模の震災に対し、私たちはどのような備えをすれば良いのでしょうか。

今回の震災では、本来先頭に立って災害対策に当たるべき地元自治体も大きな被害を受け、機能不全に陥る事態を生じました。もちろん、市では、そうした事態にならないための準備はしていますが、発災時には相当な混乱が予想されます。

まずは、ご家庭でいざという場合の行動を確認しておく必要があるでしょう。本市は、三方を海に囲まれているため、沿岸又は海域において大きな地震が発生した場合は、津波の被害を考慮しておかなければなりません。本市は、「グラッ」ときたら、高台へ避難することを第一に考えており、現在、沿岸地域の地域と高台への避難ルートを確認し合うため、各区に出向き「津波避難訓練」を実施しています。

三浦半島断層群地震

三浦半島断層群は、横須賀市の衣笠、北武、武山断層帯と本市の南下浦、引橋断層帯で構成されています。これらの活断層が動くことで発生する内陸直下型の地震は、発生の間隔が非常に長いこと、局地的に激しく揺れること、揺れの時間が比較的短いことといった特徴があります。3月11日の地震後に、北米プレートの上に位置する三浦半島の余効変動(右横ずれ)が確認されたことから、文部科学省の地震調査研究推進本部が調査を行い、衣笠と北武断層帯について「地震発生確率が高くなった可能性がある」と、昨年7月11日に発表しましたが、この発表でそれぞれの断層地震の発生確率が具体的にどの程度高くなったのかは発表されていません。

しかしながら、同様のメカニズムで発生した平成7年1月17日に発生した兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)は、建造物の倒壊や火災により大きな被害を生じたことを考えると、いつ起きてもおかしくない災害として、対策を講じておく必要があるでしょう。

災害への備え

普段から家庭や事業所内において、非常用持出品を準備しておくこと、地震による家具等の転倒による被害を防止するため家具等に転倒防止の工夫をしておくこと、災害に備えあらかじめ非常時の連絡手段を確認しておくこと、地震が発生した場合の行動(身の安全を確保し、地震後の火災を防ぐためガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを下ろすなどの行動)をあらかじめ決めておくこと、建物の耐震化を図ることが必要であると考えています。もちろん、津波の被害が想定されるときは、これに加えて速やかに高台に避難する必要があります。特に沿岸地域にお住まいの方は、どのように高台まで避難するのかを日常的に把握しておくことが大切です。

自分や家族を守り、被害を最小限にとどめるためには、災害に関する正確な情報を入手すること、そしてその情報を生かした確かな避難を行うことが大切です。そのためにも地域で行われる避難訓練や防災講演会等に積極的に参加しましょう。

また、住宅の耐震化を推進するため、昭和56年以前に建築された木造住宅の耐震診断及び改修工事に対して補助を行っていますので是非御利用ください。

交流部会

聴覚に障害のある方とのコミュニケーションの方法

交流部会長 新倉ヒナ子



開会挨拶

平成 24 年度交流部会の交流会は 6 月 23 日 (土)、南下浦市民センター 2 階講堂にて、三浦市手話サークル連絡会とボラ協 46 名の参加がありました。テーマは「聴覚に障害のある方とのコミュニケーションの方法について」です。聴覚障害についての説明をろう協の藤原さんより説明して頂きました。色々な原因で障害になりやがて自分も不自由な身になるとの事です。

手話を使わずにジェスチャーで短文を伝言して、最後に聴覚障害者に手話で表してもらおう。ゲームをやりながらジェスチャーは時間がかかり、正確に伝わりにくく、それに比べて、手話は正確で早く伝える事が出来る事をしました。日常の単語、挨拶の手話指導、手話コーラス「上を向いて歩こう」を声を出して、手話を真似て楽しく出来ました。聴覚障害者の方の体験談では、耳の不自由な方は目でキャッチする事がすぐれているので、顔の表情が大切だそうです。また、身近なスーパーの情報なども交換して欲しいそうです。コミュニケーションの手段として、手話は素晴らしい方法です。難しく考えないで、手話を学んで活用しましょう。今回聴覚障害者の方と一緒に学んで、新鮮で有意義な交流会を開くことが出来、深くお礼を申し上げます。



会長挨拶



手話コーラス「上を向いて歩こう」

交流会に参加して

前田瞳

6 月 23 日に行われた手話サークルのみなさんとの交流会に参加させていただきました。私自身、手話の知識があまりなく、今まで手話でコミュニケーションを取ることもなかったのですが、今回の交流会に参加し、聴覚障害とはどのような障害なのか、聴覚障害の方とどのようにコミュニケーションを取ればよいのかなど、色々勉強させていただきました。その中でも、聴覚障害者協会の藤原さんがお話しされていた「聴覚障害者は外見では障害があるかは分からないので、日常生活で様々な苦勞があることや聴覚障害者に話しかける時は後ろから肩を叩くよりも、正面にきて目を合わせて話しかけてほしい」など、障害者の立場でのお話を聞いたことがとても印象深かったです。私たちがこれから生活していく中で、少しでも障害のある方が住みやすい環境作りが出来るようにしていきたいと思ひます。



ゲーム「皆悩んで大きくなる」

ボラ協交流会に お礼が届きました

手話サークルともしび会

会長 石井仁美

拝啓 盛夏の候、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

先日の交流会には、多数のご協力を頂き、三浦市手話サークル連絡会の一員として改めてお礼を申し上げます。

ともしび会では、毎週金曜日の夜、三浦市青少年会館で学習会を開催、手話技術の向上及び、聴覚障害への理解と交流を図っております。市民の皆様も参加して頂き共に学ぶ場として、多くの方々にお気軽に手話の学習を体験して頂き、楽しみながら聴覚障害者の支援が出来ればと考えます。ボラ協の皆様も先日の体験を踏まえ、大勢の参加を期待いたします。

場所 三浦市青少年会館 3階 和室
問い合わせ 三浦市手話サークルともしび会
電話 (FAX) 046-882-4152 相澤さん

神奈川県ボランティア連絡協議会総会

第 18 回県ボラ協総会が平成 24 年 5 月 17 日 (木) 13 時 30 分より県民サポートセンターにて開催され、議長に三浦市ボラ協の世古久枝さんが選出されました。議案審議すべて承認され、滞りなく終了しました。その際、監事監査報告は高梨テイ会長が行いました。総会後の研修会では、田中晃氏による「成年後見制度について」の講演を伺う事ができました。成年後見制度と任意後見制度の 2 つの制度があり、元気なうちに将来の安全を守る制度である等事例に基づいて判りやすいお話でした。

研修会講演 《成年後見制度について》
講師：社会福祉法人 唐池学園 貴志園
社会福祉士 田中 晃氏

研修部会お知らせ

日時：平成 24 年 9 月 28 日 (金)
研修先：①神奈川県総合防災センター
②みんなのテーブル
メサ・グランテ

皆様のご参加をお待ちしております

研修部会部会長 名児耶洋子

ボランティアサークル仲間

- 菊名地区地域福祉推進委員会 (地区老人給食・菊名作業所活動)
- コスモスの家 (サロン事業・配食活動)
- こだま会 (在宅・施設介助等ニーズ対応)
- 三浦市スポーツクラフティさざなみ (スポーツ普及・指導活動)
- 初声手話サークル (手話ボランティア活動)
- ひばりの会 (朗読・録音サービス・大型紙芝居)
- 福井記念病院ボランティアサークル (病院内認知症高齢者介助)
- 三浦市手話サークル ともしび会 (手話ボランティア活動)
- 三浦市精神福祉ボランティア連絡協議会 (精神障害者支援)
- 三浦市地域婦人団体連絡協議会 (地域福祉活動)
- 三浦塗装看板組 (福祉施設の塗装補修サービス)
- みどり会 (サロン事業・配食活動・その他)
- みなみ手話サークル (手話ボランティア活動)
- 友愛チーム 千鳥会 (友愛訪問活動)
- ガイドヘルプの会 (知的障害者の外出介助)
- 上宮団地友愛チーム (友愛訪問活動・配食活動)

編集後記 広報 柳田一郎

手話サークルとボラ協の交流会の最後に、当事者の藤原さんの話(日常感じている事)に当事者の不安感を強く感じた。特に街中での事故・災害等に遭遇し、特に交通機関で移動中の災害事故等は、健常者の我々でさえ、パニック状態に陥る場合が多い。ましてや当事者にとって状況判断がいかに難しいか…。日常生活ではスーパー等でのタイムサービス情報等の把握が出来れば等々、限りなくあると思う。(簡単な手話・指文字・メモ等による記述・最新の方法として携帯メール機能を使う)等。健常者の我々が今少し当事者に近づけたらと思う。そこで提案ですが、認知症サポーターのオレンジの輪のような物を考案(当事者がこの人は話がわかる人)と判断できる方法を、この三浦から全国に発信出来るような新しいマーク等、当事者を含めて考案してはどうでしょうか?(健常者の皆様も一緒に(考案)提供をお願いします。



藤原さん

各部長名

- 研修部 名児耶洋子
- 交流部 新倉ヒナ子
- 会員部 深瀬 加根
- 広報部 柳田 一郎

広報担当者

- 柳田 一郎 (三浦市精神保健福祉ボランティア連絡協議会)
- 加藤 誠 (手話サークル)
- 日景 永子 (福井記念病院ボランティアサークル)
- 佐藤 和子 (こだま会)
- 湯浅 里子 (コスモスの家)
- 高橋 一江 (コスモスの家)

平成 24 年度

